



次世代に つなげる森林づくり

平成 29 年 7 月 11 日

★「平成二十九年度第一回技術開発委員会」を開催しました。

◆六月六日(火) 今年度第一回目の技術開発委員会(有識者等八名で構成)を局二階会議室で開催しました。今回の審議課題は五課題で、課題毎に意見等を頂きました。主な意見等は次のとおりです。



委員会であらゆる森谷森林整備部長

◆課題① 保育作業の省力化による森林育成技術の確立

◆調査結果では、試験地毎の成長量に「大きな差は、現段階では見受けられない」とものとなつていますが、この結果を踏まえて、全ての造林地での保育作業の省力化に繋がるものとは考えにくいので、引き続き検証を継続すること。



左3回刈払区・右4回刈払区、成長量差は少ない

◆課題② エリートツリー植栽による下刈省力化試験及びシカ食害防止クリップ効果の検証
◆エリートツリーは成長が早いことからシカ食害防止に効果を発揮できるものと期待。
◆クリップ試験では、頂芽を守る一定の効果はあるものの、シカの生息密度が高い地域では植栽木を守ることは困難。また、ノウサギの食害にも無力である。総合的に判断して試験は終了として良いのではないかと。



ヒノキの食害は壊滅的



スギは全て皮剥食害!

◆課題③ 竹を利用したシカ害対策について
現在開発中の生分解性資材(フィルム)と支柱用分割竹を使った試験(今成果に期待したい)を実施すること。様々な条件下で試験を実施すること。様々な条件で試験を実施すること。新たな試験地を設定する予定。



左ゴミ袋タイプとネットタイプ



ビニール改良型

◆課題④ 再捕獲後の影響及び効果の検証
捕獲後の影響及び効果の検証



カメラ設置によるシカ侵入頻度調査



試験地に侵入したシカの親子

※今後、全頭捕獲し首輪式通信機器を装着して放獣。



ノウサギ捕獲用箱ワナ考案中

◆この技術を開発し、試験地での活用を促進する。また、この技術を開発し、試験地での活用を促進する。また、この技術を開発し、試験地での活用を促進する。

現状

現在、森林技術・支援センターが設定している各試験地において、ノウサギによる植栽木への食害がヒノシカと混在して発生している状況



H28. 4撮影(植栽後1ヶ月)

H28. 11撮影(植栽後2年8ヶ月)

管内全署(所)において、ノウサギによる植栽木への食害が発生している箇所があることを確認

◆再造林地周辺のシカを捕獲し、新たな個体(母系)を観察する。また、このことから、周辺にも良い効果が期待できる。また、このことから、周辺にも良い効果が期待できる。